

# 平成23年度 事業計画書(案)

学校法人 日本医科大学

# 目 次

	頁
1. 法人の概要	1
2. 日本医科大学	2～5
3. 日本獣医生命科学大学	6～9
4. 日本医科大学付属病院	10～19
5. 日本医科大学武蔵小杉病院	20～22
6. 日本医科大学多摩永山病院	23～27
7. 日本医科大学千葉北総病院	28～33
8. 日本医科大学成田国際空港クリニック	34
9. 日本医科大学腎クリニック	35～36
10. 日本医科大学呼吸ケアクリニック	37～38
11. 日本医科大学健診医療センター	39
12. 日本医科大学老人病研究所	40～41
13. 日本医科大学ワクチン療法研究施設	42
14. 日本医科大学国際交流センター	43
15. 日本医科大学知的財産推進センター	44～46
16. 日本医科大学看護専門学校	47

# 1. 法人の概要

## 1. 事業計画の概要

平成 23 年度はアクションプラン 2 1 において、いよいよ新病院の前期工事が始まる年度である。アクションプラン 2 1 を順調に推進していくために非常に重要であり、柔軟な対応が必要である。

とりわけ 4 病院の収支状況が、法人全体の収支を大きく左右し、今後の計画推進に多大な影響を与える。単年度で見ると初期投資も多く、残念ながら消費収支では赤字予算になってしまったが、最悪の場合を想定した予算編成となっている。資金収支においては、多額になっている借入金残高の増加を極力抑えた。

アクションプラン 2 1 以外の計画として、武蔵小杉における再開発や電子カルテの導入、環境に配慮した地球温暖化対策の実施、将来を見据えた 2 大学合同の教育棟の設計などを計画した。

## 2. 収入計画

医療収入は付属病院の工事による影響もあるが、前年実績より約 7 億円増とし外部資金(補助金、寄付金、受託事業)の積極的な獲得活動を行い、帰属収入 792 億円の確保を図る。

## 3. 支出計画

人件費は前年予算より 2 億円の増加であるが、大半は看護師の人材派遣委託の切替に伴うものである。管理費は情報処理開発費による電子カルテ関連が大幅に減ることにより、前年予算より 13 億円少ない(▲10%) 145 億円を計上した。教育研究費は前年実績より 9 億円の増加となっているが、予算の繰越し分も含んだ金額である。減価償却費の増加は電子カルテの導入によるものである。予備費は緊急な事案の対応のために前年予算より 2 億円の増加計上したが、発生がなければ収支好転の要素となる。消費支出額は 806 億円となり収支差は▲14 億円となった。

## 2. 日本医科大学

### 1. 事業計画の概要

日本医科大学は「学術の中心として広く知識を授けるとともに深く医学を研究教授し、知的、道徳的、応用能力を展開させること」を目的としている。教育の理念である「愛と研究心を有する質の高い医師と医学者の育成」のもと日本最古の私立医科大学に相応しい教育活動、研究活動の質的充実を図っていくとともに、法人の中長期計画の中核である「アクションプラン21」を共に推進し、そのための目標収支達成を念頭に収入と支出を考慮した適切な予算編成が必要とされる。

平成23年度は、日本医科大学の中長期計画に基づき日本獣医生命科学大学との統合の検討及び新丸子校舎の移転計画の具体化を推し進めるとともに、教育改革、大学院の実質化、環境に配慮した施設等の管理、研究の活性化と競争的外部資金の獲得、大学間連携の推進、老朽化した新丸子校舎の設備整備等の諸事業を推進し、医科大学として社会の要請に充分応えられる大学を目指し、全学が一丸となって事業達成に向けて努めていく。

### 2. 教育活動

#### (1) カリキュラムの検討

コース講義、SGL、BSL、国試対策、語学教育等カリキュラム全般について更なる検討・改革を進める。

#### (2) FD活動の推進

全学的な教育方法の改善を目指しFD活動を更に推進する。FDに対する意識を高めると同時に、現在行っているFD活動について更に改善を進め内容の充実を図る。

#### (3) 大学院の実質化

分野間の連携や共通カリキュラム等の充実により、実質化を推進する。また学位授与へのプロセスの明確化（論文指導の概要、基本的な指導計画の明示）を策定するとともに、標準修業年限内での学位取得を推進する。

#### (4) 入学定員増に対する適切な対応

平成23年度からの入学定員を114名に増員することに対する適切な対応を図る。

#### (5) 平成22年度に行った教育推進室の改組に加え更に必要な改善を行うと共

に国試対策の効果を図る。

(6) シラバス等電子化冊子にしているシラバス等を電子化(CD-R)にすることにより情報を把握できるように検討を進める。

(7) 授業評価の見直し

携帯電話による授業評価を見直し、マークカードとの併用を検討しデータの迅速処理が可能なシステム開発を図る。

### 3. 研究活動

(1) 特別補助関連支出(学術研究振興資金等)、学内研究費支出(共同利用研究施設維持費、海外研修派遣費、教育学術コンテンツ等)、研究助成支出(日本医科大学賞、丸山記念研究助成金)及び特殊研究用機器備品費支出(文・施・設)をほぼ22年度と同額で予算化し、研究の活性化を継続して進める。

(2) 研究委員会を中心に、文部科学省科学研究費等公的研究費の申請件数及び採択件数の増加を図る。

(3) 平成22年度から実施している小児医療に関する調査研究を目的とする東京都の寄附講座、地域医療体制の充実と救急医療体制の整備に関する研究を目的とする茨城県の寄附講座の2件の研究活動を更に充実させる。

(4) 平成22年度から進めている公的研究費の管理システム構築を平成23年度の早い時期に完成させ、効率的な事務作業及び予算の適正管理を図る。

(5) 学術研究に関する諸規程の整備を図り、共同研究や受託研究の一層の促進と増収を図る。

(6) 知的財産推進センターと連携し、産学官連携事業の一環としての共同研究や受託研究の一層の推進を図る。

### 4. 学生支援

(1) 奨学金の増額

奨学金希望者の増加に伴い、現行の事業予算を増額し経済的に厳しい学生の支援を強化する。また金融機関との連携を図り本学奨学金以外の経済的支援を進める。

(2) 施設・設備の整備

学生の福利厚生面の整備を行うとともに、施設、設備の充実を図る。

①大学院棟の学生用什器を整備し福利厚生面の充実を図る。

②医務室の人的・物的な整備・充実を図り健康面において学生が安心して勉学に励むことができる環境作りを図る。

- ③老朽化した新丸子校舎の施設の整備及び近隣住民に配慮した施設管理を行っていく。

## 5. 管理運営

### (1) 日本獣医生命科学大学との統合計画の推進

両大学の伝統を活かしつつ、教育環境整備と施設の有効利用により高度な教育を以て社会的な要請に応えるべく、両大学の統合について協議を前進させる。

### (2) 新丸子校舎の移転事業

法人の中長期計画に基づく武蔵小杉地区の再開発により、新丸子校舎の移転計画を進めていく。併せて、日本獣医生命科学大学に建設する合同教育棟（仮称）の建設計画を進める。

### (3) 新丸子校舎移転に伴う募金活動

新丸子校舎移転に伴う合同教育棟（仮称）建設に係る募金活動を始める。目標額達成に向けた全学的な活動を展開していく。

### (4) 情報設備

- ①情報科学センターに委員会を設け、大学全体のICTの強化と効率的運営を図る。
- ②学術LANハードウェアメーカーサポート切れによる更新を行う。
- ③各病院に高機能HUBを配布し、学術LANシステムの安定稼働を図る。
- ④ソフトウェアライセンス等に関するICT資産管理強化により、コンプライアンスの充実を図る。
- ⑤学術LANを始め、学内のICT機能の強化と安定性の向上を図ると共に、学生の情報設備環境の利便性を押し進める。

### (5) 事務システムの開発

平成22年度に完成した入試システムのスパイラルアップを進めるとともに、学事システムの開発を押し進め、事務の効率化を図るとともに学事業務の機能強化を図る。

### (6) 広報活動

PR・情報委員会を軸に、学生募集においては意欲の高い学生を安定的に確保するとともに、大学ブランド力の強化を図る。

- ①大学説明会（オープンキャンパス）、大学パンフレット・DVD等の見直し・作成を行う。
- ②文京アカデミー（文京区）主催の市民講座に参加し、今年度で3回目となる3大学連携（日本獣医生命科学大学・明治薬科大学・日本

医科大学) 公開講座を継続開催し、自然科学の普及と合わせて日本医科大学の広報活動を行う。

③各種媒体を使った広報活動を展開する。

## 6. 連携事業

国内連携大学との各種協定の実質化を図り、共同研究、共同シンポジウム、大学院講座等を進める。

## 7. 国際交流

教育カリキュラム上の海外臨床研修を始め、交換留学、教員の交流などを推し進め、海外提携校との交流を促進する。

## 8. 財務関係

- (1) 入学定員を112名から114名に増員したことに伴う収入増を見込む。
- (2) 新丸子校舎の移転に伴う合同教育棟(仮称)の建設に係る寄付金募集活動を推進する。また平成22年度に引き続き受託研究や寄附講座を展開し収入増を図る。
- (3) 目標収支差額を確保すべく、収入に見合った支出を図り法人全体の財務健全化に寄与することを念頭に適切な予算執行を心掛けていく。

### 3. 日本獣医生命科学大学

#### 1. 事業計画の概要

本学は、創立130周年を迎える年になった。その歴史と伝統に相応しい実力を備えた大学として、大学力、教育力、臨床力の飛躍を図らなければならない。創立130周年の記念祭や記念事業の推進を図るとともに、教育の質の向上や学生支援等の諸課題の解決に向けて教職員、同窓生、父母会との連携強化や法人の支援を得る必要がある。

また本学の建学の精神・教育理念に基づく教育・研究活動を将来にわたり永続的に発展させるため、法人と本学が一体となり、共通の現状認識に基づく一致した政策の策定及び推進を図る必要がある。

法人は、設置大学の連携強化を図るため、本学創立130周年記念事業として新教育棟建築にあわせ、日本医科大学新丸子校舎（教養課程）を武蔵野キャンパスに移転する中・長期計画を策定した。実現すれば両大学の学生の交流に

より連帯感のみならず人間形成にも裨益<sup>ひえき</sup>すると同時に、教養教育の充実も図られると考える。

#### 2. 教学運営体制の整備

##### (1) 自己点検及び自己評価制度の定着

①自己点検及び自己評価の体制（自己評価委員会を中心に）を有効に機能させ、発展的な改善・改革の実行性を確保する。

②日本高等教育評価機構からの認証評価結果を服膺<sup>ふくよう</sup>し、継続的な改善を推進する。

##### (2) 広報組織体制と広報戦略の再構築

本学の教育・研究・社会活動等を広く学外に公表する広報戦略を策定し、本学に対する認知度の向上を図り、本学の経営・教育・研究活動の発展に資する。

①大学ブランド力の強化

②教育・研究・臨床活動の情報ネットワークの構築（情報公開）

③情報委員会・広報委員会・進路支援委員会・受験生募集対策委員会の再整備

(3) 保健管理センターの設置

学生及び職員の保健管理及び安全管理に関する業務の強化を図るため、現在の「保健室」を「保健管理センター」に変更する。

(4) 教育推進室機能の再検討

本学組織規則第21条第5号を改正し、国家試験対策（獣医師国試）にとどまらず、FD活動等教育力の活性化を目途に教育推進室組織の改編を策定する。

(5) 就職支援キャリアセンターの設置

学生の就職支援及びキャリア形成支援に関する業務の強化を図るため、「就職キャリア支援センター」を設置する。

3. 教育関連の実施計画

(1) 学部学科の入学定員の変更に関する教育研究施設や教員数等の検討を行う。

(2) 獣医療技術専門職（動物看護職及び獣医技術師）の養成（コアカリキュラム）並びに公的資格（免許）制度の制定を推進する。

(3) 獣医保健看護学科に、動物看護師有資格者（任意資格）の生涯教育及び公的試験を配置した専攻科（夜間）の設置を検討する。（4）公衆衛生関係専門職（夜間）の新設を検討する。

(5) 就職支援強化、キャリア形成に関する教育プログラムを策定し、就職支援活動を活性化する。

(6) 大学院連携協定に基づく講義の交換（単位互換）、市民公開講座等を推進する。

(7) 大学院生による教員の評価を実施する。

(8) 研究者の研究情報（R e a Dデータ）の一元管理を知的財産推進センターと連携して実施する。

(9) 富士アニマルファームの有効利用、産業動物教育の充実を図る。

4. 教育関連の実施計画

従来型の競争的資金のほか、本学の専門性を活かした産学官連携による外部研究資金の獲得を目指す。

(1) 農林水産物及び関連食品の機能評価等の基盤技術開発を推進する。

(2) 鳥インフルエンザ、B S E、口蹄疫等人獣共通疾患について、リスク管理の効率的な技術開発を推進する。

(3) 自治体及び地域住民と連携し、野生動物保護、被害対策等に関する研究教育体制を構築する。

- (4) 動物防疫研究センターの研究活動を推進する。家畜コロナウイルス、ラ  
フォラ病等の病理解析、集約的治療法の基礎的研究を展開する。
- (5) 教員・大学院生等の研究活動の向上に資する支援制度を整備する。
- (6) ハイテクリサーチ、学術フロンティア研究施設の有効利用を推進する。

## 5. 国際交流・連携

本学からの海外留学、国際交流及び留学生受け入れの積極的な支援体制を整備する。

- (1) 海外学術交流協定校の専門性を生かした共同研究、教員・学生の相互交  
流、学生の海外実習派遣等の取り組みを強化する。
- (2) クイーンズランド大学（オーストラリア）との教育・学術研究シンポジ  
ウムを定期的実施する。

## 6. 社会貢献・連携事業

地域住民の生涯学習の場として、地域との相互理解と連携強化を図る。

- (1) 総合文化講座・寄附講座・遊学講座・父母講座の開設
- (2) 5大学共同教養講座・講演会
- (3) アニマルファーム体験クラブ・犬とのふれあい教室・親子乗馬会
- (4) 武蔵野地域自由大学
- (5) 三鷹ネットワーク大学
- (6) 多摩ネットワーク大学
- (7) 大学史に関する調査、資料の収集保存及び公開を試みる

## 7. 施設設備の整備計画

- (1) 食品科学科、動物科学科及び獣医保健看護学科に日本医科大学基礎科学  
（教養課程）の教育・研究施設として、合同教育棟（仮称）の建築計画  
及び基本設計等を実施する。
- (2) 合同教育棟（仮称）の建築計画を推進するに当たり、既存不適格建物を  
解体し、不足する講義室・実習室・研究室等を補うため、B棟の増築（1  
フロア分）を実施する。
- (3) 体育施設（グラウンド・馬場等）の移転計画(用地購入計画を含む)を推進  
する。
- (4) 省エネルギー推進事業の推進体制を構築し、省エネ対策の調査研究を行  
う。
- (5) 高額医療機器の配置及び更新を図る。

## 8. 管理・運営

- (1) 大学統合協議会における日本医科大学との統合を協議する。
- (2) 大学職員の人事評価制度に連動した階層別研修システムを設計する。
- (3) 動物医療センターの診察活動を強化し、患畜の増加戦略を策定する。  
紹介病院の拡大・強化に対応し、診療を専門とする臨床教員制度を導入、  
収支改善を図る。

## 9. 財務関係

創立130周年記念事業として新教育棟の建設、馬場の移転、グラウンドの整備等教育研究施設整備の諸案件に着手するとともに、これらの資金確保にむけ寄付金募集を実施すると同時に、付属事業収入や外部資金の獲得の強化、主要経費の効率的活用を図り、大学財政の健全性を維持した予算を設計する。

### (1) 資金収支予算

資金収入額 4.7 億円・資金支出 4.4 億円

### (2) 消費収支予算

帰属収入額 4.5 億円・消費支出 3.8 億円・消費収支差 7 億円

## 10. 創立130周年記念事業

明治14年9月15日本学の前身である私立獣医学校の開学から130周年を迎えるに当たり、次に掲げる事業を実施する。

- (1) 創立130周年記念祭・130年宣言（平成23年5月10日）
- (2) 創立130周年記念式典・祝賀会・記念講演（平成23年9月18日）
- (3) 創立130周年記念誌・教育年表・写真史・大学小史の編纂・発行
- (4) 創立130周年記念事業募金の募集
- (5) 創立130周年記念建物の建築（合同教育棟(仮称)建築計画）

## 4. 日本医科大学付属病院

### 1. 収入計画

#### (1) 入院収入

付属病院再開発による解体工事等に伴う振動，騒音により入院患者数の減少が予想されるが、平均在院日数を短縮し入院診療単価を増加させ入院収入減少額を抑える。

#### (2) 外来収入

工事が4月から本格化する事に伴い、外来患者数の減少が予想されるが入院患者の平均在院日数を短縮させる事により入院診療から外来診療へシフトさせ、患者数確保を目指す。

### 2. 支出計画

#### (1) 医療機器の整備、業務改善・経費削減対策

- ① 市場調査の徹底励行
- ② 保守契約内容の再検討
- ③ 更新機器を優先し、極力新規物件は抑える。
- ④ 管財部と連携を取り、業者との値引き交渉を徹底する。
- ⑤ 購入申請に対してその必要性を厳重に調査する。

### 3. 教育活動

No.1

放射線科	研修医・学生セミナー(研修医及び学生に対する画像診断の基礎を中心に最近のトピックまで専門医が解説)
診療放射線技師	診療放射線技師学生の実習受け入れ (帝京大学, 日本医療科学大学, 中央医療技術学院, 東京電子専門学校, 城西放射線技術専門学校)
形成外科	学生教育:学生へ指導する教材を揃え、人員や予算を学生教育に使用する 研修医教育:セミナーやミニレクチャーを開催し研究や臨床活動における基礎的知識を増加させる
神経・腎臓部門	コース講義においては、エッセンシャルミニマムを中心に全般の知識、バックグラウンドから理解できるように指導する。 臨床実習では個々の学生に患者を実際に受け持たせ、各々の病棟担当医が専任指導するクリニカルクラークシップに近い方法で行い、教授、准教授、講師、病棟長、病棟リーダーを含めた症例検討会を随時行い指導する。
がん診療科	研修医の受け入れ体制を強化
リウマチ科	神経・腎・膠原病リウマチ部門BSLの一部としてのミニレクチャーの再開 リウマチ性疾患のIT化教育システム開発 リウマチ膠原病研究会(仮名)の開催
緩和ケア科	研修医の受け入れ増 緩和ケア研修会の開催 臨床実習の受け入れ がん診療連携拠点病院として連携している区東北部(足立、荒川、葛飾)からの緩和ケア研修の受け入れ
眼科	臨床実習学生へのウェットラボ実習の充実
内分泌外科、心臓血管外科 呼吸器外科	BSLの胸部画像読影の強化・プレゼンテーションの実施
呼吸器内科	国立がん研究センターへの研修・国立循環器病研究センターへの研修
乳腺科	コース講義の充実・OSCE教育の充実・臨床実習のさらなる充実
泌尿器科	研修医:泌尿器科の基礎 面白さ 後期研修医:泌尿器科の基礎 手術の基礎 医局員:専門医取得を意識した教育
薬剤部	薬学生の実習受け入れの充実 薬剤部員への臨床教育(教育システムの導入)
高度救命救急センター	学内外の医学生の積極的な受け入れ(BLS以外) 薬学部学生、看護学生の受け入れ 救命士学部(国士舘大学、東亜大学など) 文科省、厚生労働省など競争的資金獲得の促進 大学院生、研究生の基礎研究、臨床研究の活性化 初期研修医への臨床教育
総合診療科	救急患者に対するトリアージ体制の確立。国際的な科学的トリアージシステムの導入 東京都における救急搬送困難症例の受け入れとその問題点の検討
救急診療科	救急、初診外来時における効率的な情報処理システムの構築 高地登山者に対する健康診断、健康管理
小児科	小児科教室ではこれまでのコース講義の集大成として、6年の選択BSL期間中にいくつかの取り組みを行っております。一つは、国家試験に対応した小児科全般の総復習です。具体的には小児疾患の種々のシナリオを学生に配布し十分に予習、担当教員が行なう臨床に即したミニレクチャー、さらに問題演習を通じて知識の習得のサポートをおこなっております。さらに、5学年BSLの小児科実習を終了した後に、さらに専門領域1)血液、悪性腫瘍、循環器、2)新生児未熟児、3)小児外科をより深く学びたい学生に対しては、各々1)付属病院、2)葛飾赤十字産院NICU、3)順天堂大学小児外科での臨床実習を行っている。

脳神経外科	シミュレーションモデルを用いた実体験型BSLの推進
東洋医学科	3年生基礎配属選択者に対する見学実習 4年生コース選択者に対する見学実習 5-6年生BSL選択者に対する見学実習 研修医に対する教育 海外からの見学者に対する見学実習
一般内科、循環器内科 肝臓内科、再生医療科	本学学生における禁煙及び生活習慣改善教育 看護学生への勉強会実施、実習受け入れ増 留学生受け入れ 学生、研修医対象治療見学実施 米国留学教育体制の確立(本年度1名が留学予定)
ゲノム先端医療部	検査結果の評価システムの開発 院内薬剤関連遺伝子検査・研究の推進 薬剤治験・臨床性能試験・市販後調査の推進(遺伝子検査が関わる場合)
遺伝診療科	臨床遺伝専門医研修施設として、学内外からの研修医の受け入れ お茶の水女子大学からの認定遺伝カウンセラー研修の受け入れ
精神神経科	他大学医学部生の実習受入増 看護学生の実習受入増 他施設(保健所、児童相談所、精神保健福祉センター、学校等)での教育、講演
総合医療センター (総合診療科・救急診療科)	外来実習生の受入れ ※BALにおける選択科目としての受け入れ 他大学学生の見学、休みを利用した短期研修の受け入れ ※BALにおける選択科目としての受け入れ ※6年時学生に対する、実際の症例を使用した臨床講義 国家試験対策の支援

## 4. 研究活動

No.1

放射線科	私立大学戦略的研究基盤形成支援事業: 汲田伸一郎 難治性膵がんに対する革新的膵灌流療法システムの開発: 村田智 難治性膵がんに対する革新的膵灌流療法の開発と臨床応用に関する研究: 村田智 4次元流速MRIを用いた慢性期大動脈解離のリスク層別化と予後評価の前向き検討: 天野康雄 デュアルエネルギーサブトラクション法によるマンモグラフィに関する研究: 村上隆介
放射線治療科	難治性ケロイドに対する放射線単独照射の検討: 宮下次廣 ケロイドに対する小線源治療における他臓器被曝の検討: 栗林茂彦
形成外科・美容外科	臨床・基礎研究ともに創傷治癒および再生医療の研究を行っている。幹細胞を使用した血管・骨・軟骨再生、 また難治性潰瘍に対するサイトカイン治療、力学治療、瘢痕に対する多角的な外科的治療の開発を行っている
放射線治療科	ケロイドに対する術後照射における高線量率小線源治療装置を用いた新法の確立
神経内科、腎臓内科	神経内科: 脳虚血急性期の病態と治療の研究、新規脳保護療法の開発、とくに骨髄単核球移植の神経再生・脳保護効果の検討および臨床への応用 腎臓内科: IgA腎症に対する口蓋扁桃切除およびステロイド治療法の臨床的検討
リウマチ科	1. 昨年度に引き続き革新的に進化しているリウマチ治療に使用される各種生物学的製剤の治療効果と安全性について豊富な症例のデータを収集・解析し発信していく 2. 高齢社会で重要性を増す関節老化のメカニズム解明とサプリメント、ハイパーサーミアを用いたアンチエイジング法の開発研究を行う。 3. 関節炎、関節軟骨の評価のための新しい画像診断法のデータを収集する。 4. プロテオミクスを用いて関節周囲組織で疾患特異的に発現しているタンパクを同定し、あらたな治療法開発につなげる
緩和ケア科	くも膜下モルヒネ持続投与による鎮痛効果の有効性と医療経費軽減効果に関する研究
眼科	水素ガスの手術応用に関する基礎研究および臨床試験にむけた準備 眼炎症疾患に対する生物学製剤応用の拡大・ドライアイ治療の基礎研究など
内分泌外科、心臓血管外科 呼吸器外科	高齢者、低肺機能患者などにおける胸腔鏡下手術の検討 肺癌、悪性胸膜中皮腫におけるEMX2の検討
呼吸器内科	肺癌の先端的個別化治療 肺線維症を有する肺癌治療 外来化学療法に適した化学療法の開発 肺線維症の新治療法の開発 肺癌のその他トランスレーショナルリサーチ
消化器外科、乳腺科 一般外科、移植外科	乳腺科: センチネルリンパ節生検に関する研究。乳癌化学療法の副作用軽減に関する研究。
泌尿器科	腎細胞がんを中心とした血管新生に関する研究 前立腺がんの進行と臨床に関する研究
薬剤部	がん領域における抗がん剤個別副作用管理についての研究 がん領域における経済性(患者負担を含む)についての研究 緩和医療領域における患者指導についての研究 緩和医療領域における制吐療法についての研究 褥そう領域における外用剤基材についての研究 PET領域における放射性薬品検定技術に関する研究 中央手術室における薬剤師業務の在り方に関する研究 集中治療室における薬剤師業務の在り方に関する研究 高度救命救急センターにおける薬物中毒の解析に関する研究 転倒転落に関する薬剤の影響に関する研究 重症口内炎の予防と治療に関する研究 小児領域の服薬指導に関する研究
高度救命救急センター	本邦の外傷学、救急・集中治療学、災害医学をリードしてきた自負に基づき臨床並びに基礎の両面から研究活動を行っていく。当教室の研究テーマを「ショックに続発する臓器障害発生の機序解明」と設定し、外科、脳外科、整形外科、集中治療、熱傷、災害医学をサブスペシャリティーに持つサブグループが臓器障害発生機序解明という同じテーマに向け研究を行う。救急医学教室として系統立った研究方向性を持つことにより、効率よく計画的に成果を提示し、治療に反映させ、治療成績を改善することを目的としている。さらに臨床研究の成果をより理論的・科学的に補強するため、基礎研究を充実させ、臨床・基礎研究の2方向より目的の達成を目指す。
総合診療科	救急患者に対するトリアージ体制の確立。国際的な科学的トリアージシステムの導入 東京都における救急搬送困難症例の受け入れとその問題点の検討
救急診療科	救急、初診外来時における効率的な情報処理システムの構築 高地登山者に対する健康診断、健康管理

小児科	ヒト人工骨髄の作成と造血幹細胞・白血病幹細胞のニッチの研究 川崎病の病態の解明 早産児臍帯血における種々のサイトカインと各種病態との関連の検討
脳神経外科	下垂体腫瘍の内視鏡下経鼻手術は現在1,000例を超え、本邦では第1位、世界でも屈指の症例数である。脳腫瘍の最新の術中モニタリングを開発中
東洋医学科	漢方薬の作用機序などの解明を目指して研究を進めている。
一般内科、循環器内科 肝臓内科、再生医療科	高度医療申請課題「徐放化bFGF血管再生治療」継続 低温サウナによる血管新生療法 外来でのマゴット治療 体外衝撃波による血管再生治療 虚血性心疾患に合併した高血圧症の病態と臨床的対応に関する研究 心疾患に対するより包括的な心疾患管理法の開発 心電図特殊解析による心房細動substrateの推定、カテーテル心筋焼灼術の治療効果の予測および再発の予知 心房細動に対するカテーテル心筋焼灼後早期再発の原因究明と予防 喫煙が心房細動発生に及ぼす影響 急性心不全における前向き疫学調査(多施設共同研究) Rosuvastatinを用いた冠動脈形成術中の心筋障害抑制に関する研究 日本における薬剤溶出型ステントの無作為化臨床試験 新世代エベロリムス溶出ステントを用いた保護されていない左冠動脈主幹部病変に対する経皮的冠動脈インターベンションによる他施設共同プロスペクティブレジストリー 冠動脈疾患患者に対するピタバスタチンによる積極的脂質低下療法または通常脂質低下療法のランダム化比較試験 耐糖能異常症例における食後高血糖改善による心筋梗塞再発予防に関する研究 軽症糖尿病におけるインスリン抵抗性改善による心筋梗塞再発予防に関する研究 薬剤溶出ステント(Drug Eluting Stent)を用いた冠動脈形成術後の心血管イベント抑制に関する研究—アンジオテンシンII受容体拮抗薬によるイベント抑制効果 本邦における低用量アスピリンによる上部消化管合併症に関する調査研究 アルブミン尿を有する高血圧患者におけるレニン・アンジオテンシン系抑制薬投与を中心とした通常療法に対するエブレノン併用の優位性を検証する臨床試験 Prevention of Atherromthrombotic incidents Following ischemic Coronary attack The Massachusetts General Hospital OCT Registry 血管内視鏡によるシロリムス溶出性ステント留置後の薬剤による血管プラークの変化観察の検討研究—スタチンおよびコレステロール吸収阻害薬による介入試験 HMG-CoA還元酵素阻害薬(スタチン)の慢性心不全改善効果—多施設共同無作為割付試験— 糖尿病における不整脈リスクの予知およびインスリン抵抗性改善の効果—心臓電気生理異常およびインスリン抵抗性からの検討 2型糖尿病を合併した高血圧患者に対する高用量選択的AT1受容体遮断薬の効果の検討 食事負荷が与える脂質代謝への影響と心外膜脂肪との関連 2型糖尿病患者の血管内皮機能および自律神経機能に対するDPP4阻害薬の有用性の検討 糖尿病における微量アルブミン尿および心肥大に対するアリスキレンの効果 アンギオテンシン受容体拮抗薬とCa拮抗薬の併用による腎機能への効果 慢性心不全におけるピタバスタチンの運動対応能の改善効果の検討 うつ・不安・いかりと循環器疾患の関連 J-Chips Veryfy nowによる血小板凝集能の測定とイベント クロピドグレルの血小板凝集抑制作用に対するプロトンポンプ阻害薬の影響に関する研究 ワルファリン導入時における遺伝子補助治療の有効性と安全性に関する臨床研究
ゲノム先端医療部	臨床応用を視野に入れたオーダーメイド遺伝子医療のELSIに関する調査研究
遺伝診療科	家族性動脈瘤の遺伝的素因の解明 hypermobility(過剰運動)症候群の実態調査と病態の解明
精神神経科	精神疾患の病態診断と治療評価のためのイメージングバイオマーカーの開発と臨床応用 自殺対策のための複合的介入法の実態調査と病態の解明 リアルタイムfMRIを用いたバイオフィードバック法による精神科ニューロリハビリテーションへの応用 自殺の原因分析に基づく効果的な自殺防止対策の確立に関する研究 サブスタンスP受容体を標的とした新規アルコール依存症治療薬の探索と脳機能画像評価 自殺予防対策のための効果的な医学教育法の実態調査と病態の解明 電気けいれん療法前後の脳内ドーパミン受容体についての研究 神経メラニンMRIを用いた難治性うつ病のドーパミン、ノルアドレナリン機能評価研究 HIV陽性者に関する神経機能画像研究

## 5. 学生支援活動

緩和ケア科	本学学生に対する臨床実習を行っている
呼吸器内科	東邦大学大学院生との共同研究
薬剤部	星薬科大学学生受け入れ 明治薬科大学学生受け入れ がん専門薬剤師研修生受け入れ
高度救命救急センター	学内外の医学生の積極的な受け入れ(BLS以外)
精神神経科	臨床配属研究 他大学の学生の研修受入
総合診療科	体調不良の学生の診察、健康問題のある学生の相談 外来学習の担当 診断学実習国家試験対策の支援 臨床に即した初診・救急医療の学習
放射線科・放射線治療科	自主学習としての医学部4年生の「臨床配属」
形成外科・美容外科	外来見学や手術見学を推進する
一般内科、循環器内科 肝臓内科、再生医療科	本学医務室と連携し、定期健康診断有所見者への2次健康診断の実施 本学公衆衛生学と共同で、学生の禁煙相談及び禁煙に関する講演会の実施 本学学生に対する定期的健康相談の実施 国際交流センター・教務課と連携し海外留学及び選択BSL時の健康診断の実施 他大学研修生受け入れ予定(今年は近畿大学を予定) 四国本州メディカルブリッジ高度医療人養成(文部科学省)
小児科	他学から選択BSL参加 BSLには、ここ数年順天堂大学、昭和大学、東京医大などの6年生の参加もあり 本年度のこれらの学生が本院研修医に応募された
脳神経外科	夏休みなどに、本学あるいは他学の医学生を1-2週間の予定で実習の受け入れをしている。
東洋医学科	1年次の「医学概論」で「西洋医学と東洋医学」のタイトルで講義 3年次の「基礎配属」で選択学生に東洋医学の考え方等を講義・演習 4年次のコース講義で独自のテキストによる「東洋医学」の講義 5-6年次のBSLに東洋医学科での外来診療風景の見学実習を実施 研修医2年目の選択学生に東洋医学の診療を手ほどき
遺伝診療科	臨床遺伝専門医研修施設 研修生の受け入れ お茶の水女子大学 認定遺伝カウンセラー研修施設 大学院生(修士課程)の受け入れ 信州大学 委嘱講師 (渡邊) お茶の水女子大学 非常勤講師 (渡邊) 臨床遺伝専門医制度委員 (渡邊) 日本人類遺伝学会 教育推進委員会委員 (渡邊) 日本遺伝カウンセリング学会 教育委員会委員 (渡邊)

## 6. 国際交流活動

呼吸器外科	7月から1名外国人医師(タイ)を留学生として受け入れる。
呼吸器内科	中国からの留学生受け入れ予定 地域連携の推進 特に足立区からの受け入れ
薬剤部	中国ハルビン大学病院薬剤師受け入れ(H23年度は現在予定なし)
高度救命救急センター	引き続き海外からの交換BLS(ジョージワシントン大学など)を積極的に受け入れ、学生同士の国際交流支援を行う。
精神神経科	常に教室員の少なくとも1名は主として米国に留学させ、また留学先の研究者との交流を強化する。 韓国カトリック大学精神科研修医の見学受入 スウェーデン カロリンスカ研究所教授の招待講演 様々な国籍、言語をもった患者への対応
放射線科・放射線治療科	第1外科、病理学教室と合同で韓国「延世大学校」臓器チームとのカンファレンス
形成外科・美容外科	海外から積極的に見学者を受け入れる・海外から留学生を受け入れる 海外企業との連携強化・海外研究室との共同研究の推進
一般内科、循環器内科 肝臓内科、再生医療科	国際交流センターと連携し、本学及び大学院への留学生の健康診断、医療支援 血管病専門教科書執筆(出版社:InTech、クロアチア) 海外学会発表(3rd International Conference on Drug Discovery & Therapy)
小児科	適宜海外留学生や一時見学者を受け入れている。
脳神経外科	毎年、積極的に外国人医学生を受け入れを行っている。予定では、9月から1年間の予定で中国からの脳神経外科医を受け入れる。
東洋医学科	海外からの研修・視察希望者に東洋医学による診療を示し、その内容を英語で解説
ゲノム先端医療部	外国人留学生の受入(ミャンマー、モンゴル、中国) 国際研究の推進・支援
遺伝診療科	外国人留学生の受入(ミャンマー、モンゴル、中国)

## 7. 地域連携活動

No.1

付属病院	入院当初から退院調整に介入し、平均在院日数の短縮を図る がん診療連携パスを使用することに他する開業医等への啓蒙活動 脳卒中パスの活用 紹介元の医療機関情報を電子カルテに取り込む がん診療連携研修会の開催
緩和ケア科	地域連携の推進 緩和ケアに関する講演会の実施
眼科	従来から行っている病診連携型の千駄木眼科フォーラムの発展
呼吸器外科	癌診療の地域連携の推進
呼吸器内科	地域連携の推進(足立区医師会との呼吸器勉強会の充実、荒川区勉強会の発足)
内分泌外科	退院後の地域連携のさらなる推進
薬剤部	薬業連携協議会の運営(文京区、北区、台東区、葛飾区、足立区) 千駄木がん薬物療法研究会の運営(上記地区開局薬剤師対象)
	東京都病院薬剤師会活動への参画
	関東私立医大病院薬剤部研究会への参画
高度救命救急センター	脳卒中地域連携パスの導入と推進
	ドクターカーの効率的運用による中央部医療圏の地域救急連携活動の強化 区中央部東京ルール期間病院としての活動
精神神経科	地域連携の推進 遠隔地医療(三宅島 月2回) 遠隔地医療(八丈島 月3回) 保健所相談業務 児童相談所相談業務 裁判所調査官研修の受入 研究会の開催(年6回)
総合診療科	地域紹介医を対象とした講演会・東京都中央部救急拠点病院としての活動 紹介患者症例検討会・逆紹介医療施設との懇談会 全国大学病院総合診療科会議への参加・日本救急医学会ER検討委員会への参加 地域救急隊、所轄警察、福祉担当との会合・救急外来における情報処理システムの開発
放射線科・放射線治療科	地域連携の推進・耳鼻咽喉科・頭頸部外科との合同カンファレンスの一般公開
形成外科・美容外科	地域連携の促進
神経内科、腎臓内科	地域連携の推進
がん診療科	がん診療連携拠点病院として地位連携の推進 研修会、講演会を企画開催
リウマチ科	日本医大バイオロジクス合同勉強会の開催 地域連携の推進

小児科	<p>台東区医師会、荒川区医師会、足立区医師会における準夜診療所での小児救急疾患診療に医師の派遣</p> <p>本郷保健所、荒川保健所、足立区保健所における乳幼児健診に医師を派遣</p>
脳神経外科	<p>足立区公害審査会への医師の派遣</p> <p>橘桜会館を利用して、下垂体患者の会の講演会を開催する(参加無料、継続的事業)</p>
東洋医学科	<p>各種学会でのシンポジウム、ランチョンセミナー、特別講演などで東洋医学の有効性等に関し講演</p>
ゲノム先端医療部	<p>臨床応用を視野に入れたオーダーメイド遺伝子医療のELSIに関する調査研究</p>
遺伝診療科	<p>地域連携の推進(文京区・東京都)</p> <p>患者会との連携・支援(エーラスダンロス症候群, 低フォスファターゼ症など)</p> <p>日本遺伝カウンセリング学会雑誌 編集主幹 (渡邊)</p> <p>第10回遺伝子医療部門連絡会議大会長 (渡邊 平成24年)</p>
一般内科、循環器内科 肝臓内科、再生医療科	<p>紹介医療機関を対象とした教育講演会</p> <p>糖尿病循環器合併症スクリーニングの地域連携パスの運用開始</p> <p>新患・急患を待たせない診療体制の確立</p> <p>雑誌、TV紹介による地域連携の推進</p> <p>第2回 マゴットセラピー研究会開催(橘桜会館:7月)</p> <p>DDS再生治療研究会の発足(橘桜会館:12月)</p> <p>地域連携勉強会</p> <p>講演や地域協力を通し連携の推進</p>

8. 医療計画

区 分	H23 年 度 に 取 り 組 む 事 項 、 目 標 等	期 待 さ れ る 効 果 、 成 果 等	備 考
日本医科大学付属病院(全体)	後発品採用率の上昇:後発品採用率、15%超を目標とします。	DPC病院における利益率の向上	
	医療機関情報の取り込み:電子カルテ(紹介管理システム)に紹介元医療機関の情報を取り込み電子カルテ上から医療機関情報を検索できるようにする。	対外的数値表記の改善 医療機関情報を検索することで、患者さんの紹介がより適切に行われる。	
第二内科	入院収入の安定確保:クリニカルパス導入疾患を増やす	入院収入の増加	
	検査漏れを防ぎ、単価の上昇を図る		
	平均在院日数の変動を小さくする		
	外来収入の増加:電子カルテに検査セットを作成して検査漏れを防ぎ、単価上昇を図る。	外来収入の増加	
	病院全体の医療計画:現在、他院を利用せざるを得ない緊急性のあるMRI 検査を院内で行えるような体制整備を進め、外来単価の大幅な上昇を図る		
第三内科(血液内科)	血液診療の質、量の向上	患者数の増加および総収入の増加	
第四内科	外来移行策:昨年下半年からの入院ベットの減少により、前半期の当科入院成績増加基調が止った。外来移行策をさらに検討する。	外来収入の増加	
第二外科	1) 手術症例:医療連携での宣伝、講演活動	手術収入の増加	周術期管理と予後の丁寧なケア
	2)胸腔鏡下手術 (現在76%):胸腔鏡下手術症例のさらなる一般化	胸腔鏡下手術の保険点数増加と症例増加による収入の増加	スタッフのさらなる修練強化
	3)外保連関連:保険収載と手術点数の改正要求	手術収入の増加	時間がかかるが努力を続ける
脳神経外科	脳血管内治療:脳血管内手術に必要な血管撮影装置を設置して頂けるなら専門にしている医師を付属病院に戻して治療にあたせたい。	現在極めて少数しか治療していない未破裂脳動脈瘤や頸部頸動脈狭窄の血管内治療による症例数の増加が可能となる。	現在の機器では脳血管内治療は難しい(北総レベルの機器が必要)。専門にしている医師はいるので是非機器を導入して欲しい。
小児科	建設工事に伴う患者減少を考慮しています。		
眼科	並列手術の件数を増やし、手術件数の増加を目指す。	手術による収入の増加	
	施行した検査の徹底した請求	外来での検査収入の増加	
	請求できる検査の周知	効率の良い保険請求	
皮膚科	単価の向上:手術件数の増加、美容外来の拡大		
泌尿器科	医局スタッフの数は増やせないため、外来や手術件数に限界があるが、効率を良くする。		
	永山病院のスタッフ補充のために実質ダウンする。		
放射線科	検査室としてCT/MRI/核医学/IVR検査増加	増加目標(年間):CT100件、MRI60件、核医学25件、IVR5件	
精神神経科	診療体制の整備:初診患者数30名/月、再来患者数120名/月	外来新規患者および再来患者数の増加	
	院内連携の強化:患者の病態に応じた病棟の選択	病床利用率の改善、在院日数の減少	「精神科病床」と「一般病床」間の転棟を積極的に利用する
	地域連携の強化:地域医療機関との連携の強化(紹介率50%)	紹介患者、入院患者の増加	
麻酔科	診療日数増加による患者増加:現在月、水、金の午前中に制限されている外来診療を、月一金の終日診療にしたい。また、毎日診療している緩和ケア外来を併設したい。	麻酔科医数は増えて、外来診療が毎日行えるようになってきたが、現在は外来診療および緩和ケア外来にばらばらになっている麻酔科医を効率よく配置することにより、ペインクリニックおよび緩和ケア外来患者を数倍に増やせる。入院患者もとれる。	麻酔科外来を使用しているフォローアップ外来および救急外来にでていってもらい必要がある。現在全く使用されていない発熱外来と総合救急外来を一緒にしてはどうか?
形成・美容外科	地域医療連携の強化:都内に関連病院を増加させる	紹介患者数の増加	
リウマチ科	外来枠の増加	外来患者数の増加	
	画像診断の適切化	画像診断料の増加	
	赤沈検査の中央検査室移行	外来看護士の業務低減、ミスの低減	
遺伝診療科	家族性腫瘍,	外来数の増加	
	遺伝子検査の申請	保険適用の拡大, 検査費の徴収	

## 5. 日本医科大学武蔵小杉病院

### 1. 収支計画

#### (1) 外来収入

外来単価の向上

- ① 入院前検査の徹底、指導料などの入院包括される部分の外来化
- ② 適切な算定を医師と事務の連携により算定漏れのないよう取り組む。

#### (2) 入院収入

入院単価の向上

- ① D P C 包括項目（投薬・注射・検査等）の効率的な算定
- ② 基準を満たす、基本診療料・特掲診療料の施設基準の届出を推進する。

#### (3) 外来・入院収入

- ① センター化による患者増加
- ② 医療連携による患者の確保

#### (4) 補助金収入

N I C U ・ G C U 運営費補助金の獲得、その他補助金対象事業について獲得を目指す。

#### (5) 資産運用収入

資産の有効な活用

#### (6) 未収金回収

患者未収金の回収（督促の強化）

#### (7) 管理費

- ① 光熱水費の節約（省エネの推進）
- ② 委託費の効率化（人材管理・管理業務等）、看護師派遣の活用

#### (8) 医療経費

医療経費の効率的な運用（購入）

#### (9) 施設費、備品費

- ① A 4 東病棟の改修（N I C U、G C U等）
- ② 患者環境（アメニティ）の改善（病棟・トイレ等の改修）

### 2. 教育・研究活動

- (1) 感染制御部及び ICT が中心となる感染防止セミナー、医療安全管理部が主催する医療安全講習会等、新入職員研修、及び時季に沿った内容の講習会を開催する。

(2) 研修医

- ① 研修セミナーを年間約 20 回開催し、各診療科のプライマリーケアについて、基本的な知識の習得を目指す。
- ② 地域医療の分野における協力病院数を増加させる。
- ③ 院内に限らず、質の高いシミュレーションラボがあれば、積極的に活用する。

平成23年度 医療計画（武蔵小杉病院）

診療部門	項目	取り組む事項の内容、目標等	期待される効果、成果等	備考	
周産期・小児医療センター	7月中旬～10月中旬：A4E病棟の改修工事	NICU 3→6床、GCU 6→12床に増床、一般小児病床は29床→20床に削減（合計38床は変わらず） 工事期間中の患者減で、収入減は必至であり、竣工後に頑張るしかない	NICU、GCUの加算による収入増 行政からの運営補助 新生児科、小児外科の新設に伴う診療の幅の増大	工事期間中は正常分娩以外をある程度断らざるを得なくなるので、これも収入減となる	
総合診療センター	8月から新布陣で再スタートさせる	内科医と救命救急センター医を中心とする当番医が1、2次の救急患者と、内科の初診患者を診る 研修医、専修医も組み込む 特定看護師も配置する	救急医療のスムーズ化 内科外来の混雑の緩和と初診患者を待たせない 研修医教育 特定看護師育成	当面は日勤帯で実施、いずれは24時間体制にする	
循環器センター（循環器内科、心臓血管外科）	連携により、一層の活性化を図る	4月から合同カンファランス 5月24日以降、救急隊との急性冠症候群疑い患者のホットライン開始	お互いのレベルアップ 患者数の増加		
呼吸器センター（呼吸器内科、呼吸器外科）	連携により、一層の活性化を図る	内科と外科の連携に止まらず、腫瘍内科との連携も図る	お互いのレベルアップ 患者数の増加 手術件数の増加	9月から呼吸器外科医が1名辞めて、1名になるので、何とか補充をしたい	
その他のセンター	連携により、一層の活性化を図る	内科系と外科系の連携	お互いのレベルアップ、患者数の増加、手術件数の増加		
健康管理科	段階的に健診業務を再開させる	放射線科が川崎市の乳がん検診に対し、マンモグラフィーのみを行う	行政への協力	その他の健診に関しては未定	
感染制御部	感染制御	耐性菌を作らないための介入 院内感染の拡大阻止 院内感染の早期発見のためのサーベイランス、など			
全体	入院の長期化の防止	入院時スクリーニングで高リスク患者をとらえ、早期から介入する 医療連携室に専従看護師の配置	平均在院日数の短縮化	長期の人をどうするかが問題で、通常の人にはあまり問題ではない	
	10月を目途にフィルムレス化	外来、カンファレンス室、手術室等にディスプレイを配置	フィルム代の削減、デジタル画像加算、フィルム保管場所が不要となる、フィルム探しの手間が無くなる、医療安全、患者満足		
	看護師の確保	周産期・小児医療センターの増床、全体のベッド稼働率アップのために増員する	増員による稼働率アップは収益アップにつながる 増員により勤務に余裕が生まれる	来年度に30床を増床するので、なおさら人員が必要	
	複雑性指数のアップ	手術件数を伸ばすとともに、難易度の高い手術を増やす			
	コメディカルの人員確保		ME部：件数増加、休日夜間の呼び出しの増加のため 8→11名へ	手術やPCI、血管内低侵襲治療、血液浄化件数の増加 医療安全	
			視能訓練士 3→4名へ	外来の効率化は手術件数の増加に結びつく	
			作業療法士 0→1名へ		
医師事務作業軽減のクランク試用		医師事務作業の軽減	試用で効果を認めれば増員し、加算できるようにする		
治験の推進	循環器内科、腫瘍内科の開設に伴い、力を入れる				
以上をまとめた事業計画		1. 患者の視点：接遇の改善、外来待ち時間の短縮化、外来・病棟のトイレの改修、など 2. 業務プロセスの視点：フィルムレス化の実現、センター化による関連分野の連携と協力、効率性指数と複雑性指数を上げる、など 3. 学習と成長の視点：センター化により互いのレベルアップを図る、施設認定や個人資格の取得、真の中核病院・日医大の模範病院となる、など 4. 財務の視点：無駄の排除、看護師の数を安定的に確保し高ベッド稼働率を維持、安定した黒字体質の確立、など			

## 6. 日本医科大学多摩永山病院

### 1. 収入計画

#### (1) 医療収入（入院）

- ① 7：1 看護の維持
- ② 入院患者数確保を目的とした診療部門への働きかけ
- ③ 新たな施設基準の届出（感染防止対策加算）
- ④ 機能評価係数Ⅱの見直しによる上昇
- ⑤ 診療科ごとの指標設定

#### (2) 医療収入（外来）

- ① 診察日、検査体制の見直し
- ② 診療科ごとの指標設定
- ③ 診療単価の維持

#### (3) 調整増減収入

低査定率の維持

### 2. 支出計画

#### (1) 教育研究用機器備品費

核医学診断装置(RI)の更新

#### (2) その他機器備品費

自動入金機の導入

#### (3) 施設修繕費

- ① 厨房内改修工事
- ② 病室療養環境改善工事

### 3. 教育活動

#### (1) 放射線科

画像診断医の効率的育成

#### (2) 放射線治療科

放射線治療医・技師・看護師の効率的育成

#### (3) 女性診療科・産科

- ① ハイリスク分娩に対するチーム医療の取り組み

- ②院内助産、助産師外来支援
  - (4) 小児科
    - BSL 実習 9 グループを受入予定
  - (5) 泌尿器科
    - ①BSL 教育
    - ②研修医教育
  - (6) 耳鼻咽喉科
    - 長期休暇中の学生受入
  - (7) 脳神経外科
    - BSL 実習
      - ①脳外患者の的確な診断、治療方針の決定、家族の心のケアを学ぶ
      - ②リハビリの重要性を学ぶ
      - ③地域連携の重要性を学ぶ
  - (8) 麻酔科
    - 診療部長の定年に伴い、部長交代となる診療科の部長の教育に対する評価を明確にする。
  - (9) 呼吸器外科
    - 呼吸器外科疾患における手術療法の適応と手術療法の手技の理解（特に低侵襲手術の適応拡大）
- 4 研究活動
- (1) 内科、循環器内科
    - ①高分解能心電計を用いた高血圧合併発作性心房細動患者における心筋伝導性及び自律神経機能に関する検討
    - ②心房細動における心筋細胞内 cytokines および S100 蛋白の発現に関する検討
    - ③慢性心不全患者におけるエイコサペンタエン酸の有用性とその機序に関する検討
    - ④血中心血管疾患マーカーの臨床的有用性に関する研究
    - ⑤慢性心臓病と心血管疾患に関する研究
  - (2) 小児科
    - ①川崎病発症に関わる川崎病関連遺伝子の解明
    - ②小児呼吸音の音響的原因解明とその臨床応用に関する研究
    - ③小児期のけいれん及びてんかんの臨床的検討

(3) 皮膚科

乳児における皮膚系症状の疫学的調査

(4) 麻酔科

- ①疼痛に対しての侵襲的治療法を確立させる。
- ②咽喉頭領域の解剖的見地を新たにし、送管困難症を解明する。

(5) 放射線科

- ①ヨード造影剤と腎機能、造影剤と肝腫瘍描出、核医学的手法を用いた心臓の機能解析
- ②MRI を用いた心臓の機能解析

(6) 呼吸器外科

- ①肺癌手術後の補助化学療法の開発（新規レジメン）
- ②新しい胸腔鏡手術の導入
- ③肺腫瘍の術中局化診断機器の開発

(7) 脳神経外科

- ①脳血栓症患者における血小板マイクロパーティクル測定の意義
- ②脳梗塞患者における血管内皮機能の測定

(8) 耳鼻咽喉科

- ①内耳自己免疫病の病態治療成績
- ②内耳自己免疫病の自己抗原ペプチドの作成検証

(9) 女性診療科・産科

- ①助産師による会陰裂傷縫合に関する研究
- ②女性医師離職防止のための勤務支援好事例の収集と検討
- ③切迫早産におけるプロゲステロン療法の効果に関する研究
- ④胎児心拍数モニタリングの再現性に関する研究

(10) 泌尿器科

- ①尿路感染症の動向～特に薬剤耐性について～
- ②前立腺がん内分泌療法に伴う副作用～脂質代謝異常について～

## 5. 学生支援活動

### 夏季・冬季実習

- (1) 長期休暇中の学生受入（耳鼻咽喉科）
- (2) 内視鏡手術と一般的手術に必要な基本的手技の学習

## 6. 国際交流活動

- (1) 中国山東省、省立医院麻酔科からの研修を引き受ける。
- (2) サンフランシスコ（カリフォルニア州立大学）との共同研究

## 7. 地域連携活動

- (1) 新規連携医療施設確保
- (2) 近隣医療機関との更なる医療連携の強化（連携ニュース充実、医師による訪問、等）
- (3) 地域医療連携連絡会開催（内科）
- (4) 多摩産婦人科病診連携懇話会の実施（女性診療科・産科）
- (5) セミオープンシステム「母と子のネットワーク」（女性診療科・産科）
- (6) 多摩永山皮膚科病診連携の会
- (7) 南多摩小児臨床懇話会開催
- (8) 病診連携
- (9) 地域からの紹介患者の症例検討会
- (10) 地域での研究会の参加と交流

23年度 医療計画（多摩永山病院）

（診療科別）

診療科名	項目（重点取組事項）	H22年度現状等			H23年度目標	
		(H21年度実績)	H22年度現状 (4月～10月)			
内科、循環器内科	経皮的冠動脈形成術（22,000点） ペースメーカー移植術（7,820点） ペースメーカー交換術（3,610点） 経皮的カテーテル心筋焼灼術（26,440点） 心臓カテーテル検査 パスを広く導入	107件 18件 9件 5件 280件	65件 11件 2件 2件 167件			130件 20件 10件 10件 300件
消化器外科・乳腺外科・一般外科	がん診療病院としての対応	H22年度取り組み ・5大がんを含めた悪性疾患患者数の増加 ・パスにより紹介医との術後経過観察の共有 ・近隣医師との知識・意識の共有			入院日数短縮、病床利用率確保、術後合併症低下（DPC対策含む） 22年度の取組を継続	
脳神経外科	収益性の高い疾患の増加 脳腫瘍・脳血管奇形患者の増加 入院診療単価の増加 虚血性疾患に対する外科的治療（頭蓋内外動脈吻合術・頸部頸動脈内膜剥離術）患者の増加	平成22年4月～12月現時点で脳腫瘍手術件数は12例（1～12月では18例）、年度では18例前後の見込み。			毎月、少なくとも2例の脳腫瘍手術を目標とし、平成23年度は総計25例を目標とする。	
整形外科	手術・患者数の増加	H20・21年度と比較して、手術件数の低下はさほどではないにもかかわらず、入院患者数が大きく低下している。これは当地の整形外科基幹病院として手術適応のない患者の入院を制限したこと・手術後のリハビリを短縮したことによると考えられる。			毎月平均1～2例の手術を目標とし、平成23年度は総計20例を目標とする。	
眼科	手術件数の増加 外来検査数の増加	新規手術装置の導入 新規診療機器の導入、視野訓練士の増員				
耳鼻咽喉科	入院患者数増加 手術件数増加 外来検査増加	1日6人程度 1週間4件程度 1ヵ月8件程度			1日10人、手術以外の急性感染症、めまい、突発難聴、顔面神経麻痺などの疾患入院治療 1週間6件、1ヵ月24件以上 めまい検査1ヵ月15件以上、精密聴力検査10件以上	
皮膚科	手術件数増加(内、皮膚悪性腫瘍切除術件数)	1ヵ月6件(1.4件)			1ヵ月6.5件(1.3件)	
放射線科	診断管理加算2の維持	管理加算2に必要な要件を満たすべくCT・MRI・核医学については翌診療日までのレポート提出を継続する。			2千数百万円の収入獲得(平成22年度と同等)	
麻酔科	外来収入の増収	木曜日を外来診療日に追加し、毎週4人の初診患者数増を見込む。(月・水・金 ⇒ 月・水・木・金)			初診1人あたり、8,540円の増収の見込み。	
救命救急センター	救急搬送患者数 手術件数の増加 平均在院日数	1ヵ月119件 1ヵ月13.9件 15.1日			1ヵ月125件 1ヵ月15.4件 10日	
呼吸器外科 (KPI)	手術件数の増加 入院患者管理の簡素化(クリバス症例数) 入院単価の増加 1.悪性腫瘍手術の増加(悪性腫瘍手術件数) 2.良性疾患手術の増加(クリバス症例数) 3.気胸患者の外来管理化(ソラシックエック使用数) 外来単価の増加 1.気胸患者の外来管理化(気胸患者予定手術) 2.外来単価の増加(外来胸腔ドレナージ件数) (術後化学療法患者数)	H22年度見込み 0件 26件 0件 3件 1件 1件 2件			H23年度目標 30件 36件 30件 40件 40件 40件 10件	
呼吸器・腫瘍内科	外来化学療法患者数・単価の増加	1日あたり7～8回			月平均15例に増	
放射線治療科	高エネルギー放射線治療(1回目) (内、4門以上) 高エネルギー放射線治療(2回目) (内、4門以上)	1ヵ月467.8件 (1ヵ月441.6件) 1ヵ月24.9件 (1ヵ月13.7件)			1ヵ月481件 (1ヵ月460件) 1ヵ月26件 (1ヵ月15件)	

（病院全体）

入院	7:1看護体制の維持 患者数確保～診療部門への働きかけ 新たな施設基準届出(感染防止対策加算) 機能評価係数Ⅱの見直し(上昇) 診療科ごとの指標設定	地域連携活動の推進 ・新規連携医療施設確保 ・連携コース充実、医師による訪問など ・地域からの紹介患者の症例検討会 ・地域での研究会参加・交流
外来	診療日、検査体制の見直し 診療単価維持 診療科ごとの指標設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域医療連携連絡会開催(内科)</li> <li>・多摩産婦人科病診連携懇和会(女性診療科・産科)</li> <li>・多摩永山皮膚科病診連携の会</li> <li>・南多摩小児臨床懇和会</li> </ul>
全般	手術件数の増加 外来検査数の増加 外来化学療法患者数・単価の増加 患者数増加	

## 7. 日本医科大学千葉北総病院

### 1. 収入計画

#### (1) 医療収入

外来化学療法室の改修。入院化学療法から外来化学療法にシフトすることにより医療収入増加を見込む。

#### (2) 補助金収入

- ①がん診療施設整備事業補助金の獲得
- ②災害対策設備整備事業補助金の獲得

#### (3) フィルムレス化の推進

電子カルテ導入に伴いモニター診断の環境を整えることで完全フィルムレス化をめざす。

#### (4) 管理区域の廃止

現在、非密封放射線同位元素使用室（インビトロ検査）では、RI を使用した測定が行われていない。管理区域の廃止届を行うことで、定期的な実施している放射能汚染の測定を取りやめる。

#### (5) 光トポグラフィー

精神医療の中で唯一の先進医療「光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助」を3月に申請予定。経費削減を推進していく。

#### (6) 薬剤部

- ①抗菌薬適正使用のための積極的TDM（治療薬物モニタリング）の活用
- ②薬剤管理指導件数のアップ

#### (7) 女性診療科・産科

- ①HPVワクチンを一般の方にさらに認知させる。北総よみうり（新聞）にてワクチンに関して解説を行う。
- ②婦人科腫瘍、特に癌患者の手術受け入れ強化
- ③外来化学療法可能なレジメンの新設

#### (8) ドクターヘリ格納庫補助金

ドクターヘリの安全運航を確保するため、千葉県医師会を通じて格納庫の整備補助金を県に申請する。

#### (9) 外傷センターの体制整備

外傷患者収容数年間 1200 例、重度外傷患者収容数年間 200 例を目標とする。

- (10) ラピッド・カーの体制整備  
運用時間を月曜から金曜のドクターヘリ運航終了時から 23 時に拡大し重症患者収容数増加を図る。
- (11) リハビリテーション料・急性期加算  
言語聴覚士の増員
- (12) ボトックス治療  
上下肢痙縮に対するボトックス治療例の増加

## 2. 支出計画

- (1) 薬剤部  
救急外来：中毒患者の迅速な検査の充実のためガスクロの導入検討
- (2) 女性診療科・産科  
外来の内診室新設に伴う経膈超音波装置新設予定
- (3) 遺伝子診断の導入  
乳癌を始めとする腫瘍の遺伝子診断として、FISH 法を用いた染色体異常の有無を検討することが必要になってきている。このため FISH 法に必要な試薬類の整備及び技術の取得のために必要な病理部技師の講習会への派遣が必要である。

## 3. 教育活動

- (1) メンタルヘルス科
  - ①精神科専門医研修施設であり、研修医・専修医が専門医を取得できるよう取り組む。
  - ②他大学心理学科大学院生の実習施設として、毎年 6-10 名受け入れている。
- (2) 薬剤部
  - ①抗菌薬適正使用のための積極的 TDM の活用、第 1 次体制づくり
  - ②薬剤管理指導業務の拡大及び充実（病棟への薬剤師常駐化）
  - ③チーム医療の推進
    - ・フィジカルアセスメントの研修
    - ・輸液療法室で調製できる環境をつくり、服薬指導・副作用モニターも可能な体制を検討する。
    - ・ICU・SCU への薬剤師の常駐化を検討
  - ④薬学生教育への積極的なかかわり

- (3) 女性診療科・産科
  - ①研修医に対する、教育用腹腔鏡システムを用いたデモンストレーション（平成 22 年度にも実施）
  - ②研修医に対する電気メスの原理の説明とデモンストレーション（平成 22 年度にも実施）院内助産、助産師外来支援
  - ③BSL に対する、女性診療科・産科の部門別のミニ講義
- (4) 中央検査室
  - ①深部静脈血栓（DVT）予防対策および敗血症塞栓症を含めたスクリーニングを目的とした超音波検査法による血管ラボ的な構築の準備可能な限り試行への取組み（専門技士資格の取得者育成、必要機器機材の選択・導入、人員の確保：内科・放線科より検査導入提案あり）
  - ②SPP（皮膚灌流圧）検査導入を目的とした取組み（放射線科より検査導入提案あり）
- (5) 循環器内科
  - ①教授会にて清野教授が H23 年度より教育委員に選任され、附属四病院の中でも当院における医学部教育（BSL, プレ BSL）、研修医教育、専門医教育の一層の充実を図る計画を構築している。これに伴う公的資金の確保（文科省, 厚労省他）にも努めたい。
  - ②特にアクションプラン工事期間の当院の教育における役割も重要であり、その体制を充実したい。
- (6) 救命救急センター
  - ①HEM-Net 助成事業「ドクターヘリ搭乗医師・看護師研修プログラムによる、医師・看護師を全国から受入れ教育する。
  - ②アジア各国からのヘリコプター搭乗医師等を受入れ、教育・研修を実施する。
  - ③厚生労働省事業「救急医療従事医師・看護師研修プログラム」による、医師・看護師を全国から受入れ教育する。
  - ④印旛MC 協議会事業として、救急救命士ならびに救急隊員を受け入れ、病院実習を実施する。
  - ⑤救急救命士養成校からの学生を受け入れ、教育ならびに病院実習を実施する。
  - ⑥全国の大学医学部から学生を受け入れ、病院見学実習を行う。

#### 4 研究活動

##### (1) 循環器内科

「心血管バイオマーカーの開発と冠動脈先端画像」「心筋梗塞地域連携パス」

(2) メンタルヘルス科

抑うつ患者の光トポグラフィーを用いた検討、脳卒中後うつ病の病態に関する研究、修正型電気けいれん療法前後におけるモノアミンの変動に関する研究

(3) 女性診療科・産科

低分子 RNA をツールとした新規診断・治療法開発研究：分担(子宮癌におけるマイクロRNAに関する研究)

(4) 救命救急センター

①交通事故と人身傷害に関する多角的研究

②尿中NGALを用いた外傷後急性腎障害の早期診断法の開発

(5) リハビリテーション科

光トポグラフィー、SPECT を用いた脳機能評価、機能的電気刺激によるニューロリハビリテーション、機能的電気刺激と経頭蓋直流電流刺激を用いたニューロリハビリテーション、脳磁図の研究、脳卒中の diaschisis の研究

5. 学生支援活動

(1) 長期休暇中の学生受入（耳鼻咽喉科 BSL の精神科実習は、千駄木とほぼ同数の学生を受け入れている）

(2) 学生アドバイザー(神戸沙織先生)

(3) 本学、他大学からの学生、研修医の当院産婦人科臨床への見学受け入れ

(4) 日本医科大学学生の選択 BSL の受け入れ

(5) 他の医科大学学生の病院実習受け入れ

6. 国際交流活動

(1) 韓国救急医療関係者の受け入れとヘリコプター救急医療の教育

(2) タイ国救急医療関係者の受け入れとヘリコプター救急医療の教育

(3) 国際学会参加、演題発表、交流予定

7. 地域連携活動

(1) 医療連携支援センターの設置(医療連携室から名称変更)

(2) 当院、成田日赤、東邦佐倉病院を中心に、北総地区の精神科医による北総精神科医会を4ヶ月ごとに開催

(3) 千葉県内の私立大学を中心に、地域の開業医の先生も参加してもらい千葉県うつ・不安研究会の開催

- (4) 総合病院精神科研究会、認知行動療法研究会、認知症研究会など多くの研究会に参加
- (5) 薬薬連携の更なる充実（研修会の企画、お薬手帳の活用）
- (6) 地域連携における薬剤師としてのかかわり
- (7) 北総よみうりにて婦人科疾患の紹介、説明を行う。（昨年11月、12月に引き続き）1月、2月を予定
- (8) 「心筋梗塞地域連携パス」
- (9) 印旛地域メディカルコントロール協議会の基幹病院としての各種活動
- (10) ラピッドカーを活用した広域病院前救急医療の提供
- (11) 公開講座として機能的自立度評価法講習会を開催予定
- (12) 公開講座として機能的電気刺激講習会を開催
- (13) 東京電機大学と脳磁図研究の連携が進行中
- (14) 脳卒中地域連携パスを通じて地域医療機関との連携を密にしてゆく。

平成23年度 医療計画(千葉北総病院)

区分	H23年度に取り組む事項、目標等	期待される効果、成果等
日本医科大学 千葉北総病院 (全体)	フィルムレス化の推進:電子カルテ導入に伴いモニター診断の環境を整えることで完全フィルムレス化をめざす。	医療材料費(フィルム購入代金)約7,000万円の軽減。フィルム搬送・保管にかかる人的・時間的・空間的・経済的負担軽減が見込まれる。8月1日の電子カルテ化に伴いほぼ完全実施化。
	光トポグラフィー:精神医療の中で唯一の先進医療「光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助」を3月に申請予定。	うつ病の鑑別診断として、週2-4例実施予定。1回実施で約1.3万円徴収可能。既に実施開始。また、トポグラフィー実施要員については、5月12日から雇用開始し、検査体制の整備は完了。高度先進医療として既に届け出も完了(受理番号(先151第1号))。算定開始年月日は平成23年4月1日付。
	外来化学療法:入院化学療法から外来化学療法にシフトする。	入院化学療法から外来へシフトすることにより医療収入増加見込。
	リハビリテーション科:言語聴覚士の増員を図る。	増員により、リハビリテーション算定単位数が増加し、増収につながる。STについては、6月1日付採用。言語聴覚室を6月中旬までに改修し、増収化を目指す。
	補助金収入増加:がん診療施設整備事業補助金、災害対策設備整備事業補助金の獲得。	平成22年度補正予算における地域医療再生計画(2100億円)に関して、県として先般、千葉県地域医療再生計画案を厚労省に提出しており、その内容について経営強化委員会を中心に検討を実施。今後国の有識者会議の動向を見た上で、補助金獲得に向け事前準備を進める。
	医師事務作業補助体制加算のバージョンアップと増収	平成22年4月1日付、従来の100対1加算を75対1加算に変更したが、平成23年度の早い時期に50対1加算を取得し、増収を図るとともに併せて医師の負担軽減を進める。
薬剤部	抗菌薬適正使用のための積極的TDMの活用	1名体制で年間約300万円増収見込み。抗菌薬使用量減少や平均在院日数減少も期待される。既にTDMについては部分的に実施しており、抗生剤の使用量の減少等が図られている。また、平均在院日数の低下による診療単価の向上も期待できる。
	薬剤管理指導件数の増加	平成23年度においては、対前年度比20%増を目標に取り組み、増収を図っている。
女性診療科・産科	HPVワクチン:HPVワクチンを一般の方にさらに認知させる。	HPVワクチン、一回19,000円で計3回で収入増加が期待される。月に2-3人を目標とする。
	婦人科腫瘍、特に癌患者の受け入れ強化。	平成22年度において、診察室の改修等を実施し、増収に向け取り組んでいる。
	外来化学療法:外来化学療法可能なレジメンの新設。	入院から外来に化学療法を移行することにより収入の増加を図る。
メンタルヘルス科	光トポグラフィー:精神医療の中で唯一の先進医療「光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助」を3月に申請予定。	うつ病の鑑別診断として週2~4例実施予定。1回で約1.3万円。既に病院全体案で記したとおり、検査要員の確保をはじめ体制を整え実施している。
リハビリテーション科	言語聴覚士:言語聴覚士の増員により、リハビリテーション単位数の増加を図る。	増員により、リハビリテーション算定単位数が増加し、増収につながる。6月中旬からは増収体制整備完了。
	ボトックス治療:上下肢痙縮に対するボトックス治療例を30例に増加	ボトックス治療例増加による医療収入増を見込む。
救命救急センター	ドクターヘリ格納庫補助金:ドクターヘリの安全運航確保のため、千葉県医師会を通じて格納庫の整備補助金を県に申し入れる。	約5000万円の補助獲得を目指す。千葉県医師会等の理解も得て、関係団体と交渉中。
	外傷センターの体制整備:外傷患者収容数年間1200例、重度外傷患者収容数年間200例を目標とする。	患者数増による医療収入の増加が見込まれる。
	ラピッド・カーの体制整備:運用時間を月曜から金曜のドクターヘリ運航終了時間から23時に拡大し重症患者収容数増加を図る。	患者数増による医療収入の増加が見込まれる。現在、千葉県医療整備課と協議中。ラピッド・カーの運用拡大については、千葉県地域医療再生計画案にも盛り込まれており、今後の動向を注視する必要がある。

## 8. 日本医科大学成田国際空港クリニック

### 1. 収支計画

#### (1) 外来収入

日帰り人間ドック事業

#### (2) 受託収入

①航空機事故災害訓練に伴う空港スタッフへの教育・指導（2回／年）

②24時間救急患者受け入れ

#### (3) 人件費

日当直医師派遣期間の拡大

#### (4) 医療経費・管理経費・教育研究費

毎月予算内における達成率を管理し、効率的・効果的な業務体制及び診療材料費の節減などにより費用を削減する。

### 2. 教育研究費

#### (1) 新型インフルエンザ等感染症患者動向研究

#### (2) 旅行者の疾病調査研究

### 3. 学生支援活動

研修医受入れ（1～2名）定期的ミニレクチャーの実施

### 4. 地域連携活動

(1) 地域医師会活動への参加し、幅広く医療連携の推進活動を行っている。

(2) 空港の諸関係機関との連携

## 9. 日本医科大学腎クリニック

### 1. 収支計画

(1) ベッド数に制約があり保険も包括化されていることから、単価の大幅な増加は難しい。付属病院だけでなく東大病院や、医科歯科病院、順天堂などからの患者の受け入れを積極的に進め、70名程度の患者の確保をめざす。

また消化器内科との提携で行っている、潰瘍性大腸炎に対するリンパ球除去の患者の受け入れを積極的に行っていく。

(2) 保険の請求方法の見直しも行い単価を上げていく。同時に包括化内でのコスト削減を行い、包括外での上積みを行う。

(3) 血ガス分析装置の入れ替えで、ランニングコストの大幅な削減を行う。

(4) 増収と同時にコスト削減による増益を目指す。

(5) 日本医科大学の付属施設であることから、通院患者さんの期待として、急変時の付属病院への入院や CT や超音波検査などの予約の簡便化などがある。しかし付属病院の透析ベッドの少なさのために入院できず他施設へ入院を依頼する事態が続いている。第2内科との連携を強めると同時に、女子医大東医療センターなど、他大学との連携を模索する必要もある。また電子カルテの導入に伴い従来行われていた医療連携室を通しての CT や超音波検査の予約ができなくなっている。医療連携室等と交渉し、速やかな予約システムの再開を目指す。

(6) 透析管理システムの更新（ハードウェアの交換）と LAN 工事（約 450 万）

(7) 地デジ化に伴い各透析ベッドの個人用テレビの交換（約 250 万）

### 2. 教育活動

(1) 医学部4年の臨床実習で8名受入れている。

- (2) 医学部3年の病理実習で10名の見学を受入れている。
- (3) 看護学校の臨床実習で30名を受入れている。
- (4) 日本透析医学会認定看護師の実習先として2名受入れている。

### 3. 研究活動

- (1) 透析患者における ProBNP と心機能の相関について
- (2) 結節性病変を有する続発性副甲状腺機能亢進症に対する VitD3 パルス療法とシナカルセット併用療法の有効性について
- (3) エリスロポエチン製剤不応性貧血における鉄代謝について
- (4) 自己効力理論に基づく患者支援システムについて

### 4. 学生支援活動

各種実習を受入れ。

### 5. 国際交流活動

- (1) 旅行や出張で海外で透析を行う場合の紹介を行っている。
- (2) 海外からの臨時透析の依頼を受入れている。
- (3) 海外からの施設見学を受入れている。

### 6. 地域連携活動

- (1) 東京大学病院、東京医科歯科大学病院、順天堂大学病院、東京女子医大病院への患者の紹介や維持透析患者の受入れを行っている。
- (2) 代々木山下医院、春口クリニックにシャントトラブルの患者の紹介を行っている。
- (3) 搏慈会記念病院、都立大久保病院、女子医大東医療センター、さくら記念病院などに、入院患者の受入れを依頼している。
- (4) リハビリが必要な患者さんに対し、通所リハビリ施設を紹介している。
- (5) 送迎が必要な患者さんに対して、協力してもらえる介護センターを紹介している。
- (6) かかりつけの眼科に定期的な眼底検査を依頼している。

## 10. 日本医科大学 呼吸ケアクリニック

### 1. 収支計画

#### (1) 医療収入

慢性閉塞性肺疾患(COPD)、睡眠時無呼吸症候群(SAS)、在宅呼吸ケア等に重点を置きこれまでも実施してきた、広く一般市民に対する啓蒙活動を通じて情報提供を行う。中でも大学付置施設としての責任を果たすべく、重症度の高い高度医療を必要とする患者の受け入れの態勢を整える。これにより可能な限り、医療収入の増加を図る。

#### (2) 特別寄付金

臨床研究を推進し、質の高い医療を実践していく為の原資としていく。

#### (3) 賃借料(家賃・在宅リース)

賃料・在宅機器リース料を見直し、コスト削減に努め、また新しい生理機能検査機器の導入を行い、収入増を工夫していく。

#### (4) 医療経費(検査委託費など)

医療経費全般を見直し、支出抑制を図っていく。

### 2. 教育・研究活動

#### (1) 臨床医学見学実習の受入れ

- ①医療現場を身近に感じてもらうため、日常診療の見学を受け入れる。
- ②呼吸器疾患特有の検査や患者指導の場面を見せることにより、臨床教育の充実向上に協力していく。

#### (2) 『慢性閉塞性肺疾患(COPD)』の増悪に対するグルコサミングリカンを用いた新規治療法の開発

#### (3) 慢性閉塞性疾患の診療における医療の質を保証するためのシステム構築に関する研究

(4) 慢性閉塞性肺疾患のうつ症状を規定する遺伝子の探索

(5) 喫煙関連呼吸器疾患へのニコチン受容体遺伝子多型の関連の検討

### 3. 学生支援活動

(1) 休暇時期にこれまでも本学医学部学生の見学実習を受け入れてきたが、在學生に開放した形での見学の要望に応じていきたい。

(2) 咳・痰等の呼吸器疾患を有する学生の診療を受け入れてきたが、今後も積極的に実施していく。

### 4. 国際交流活動

COPD の治療・臨床研究について、英国・プリマス大学との共同研究を積極的に取り組んでいる。また、カナダ・マッギル大学にスタッフが留学中であり、今後も交流を継続していく。

### 5. 地域連携活動

医師会・企業・他大学を通じて、講演会や他診療機関との勉強会を催し、幅広く医療連携の推進活動を行っている。

## 1 1. 日本医科大学健診医療センター

### 1. 収支計画

#### (1) 医療収入

- ①臨床PET検査件数増加のため附属病院の電子カルテを通じた依頼システムの構築
- ②PET検診件数増加のため中国人を中心とする海外健診者の誘致を促進する。

#### (2) 受託研究収入

企業による薬効判定検査や創薬事業からの委託費の増加のため営業活動を行う。

#### (3) 旅費交通費

医療、受託収入計画を実現のため、近隣諸国への営業を行うため積極的に予算を活用する。

### 2. 教育・研究活動

- (1) ポジトロン断層撮影検査を中心に新たな画像診断技術や検査薬の開発に取り組む。
- (2) ポジトロン断層撮影検査を中心に新たな新薬の診療効果判定を行う看護師国家試験合格率の向上

## 1 2. 日本医科大学老人病研究所

### 1. 収支計画

#### (1) 教育研究推進事業

社会連携研究推進事業（認知症相談センター業務）の最終年度にあたり、総括的事業展開を図る。

#### (2) 科学研究費補助金

高度先進的な研究を持続させるため、国庫補助金等公的研究費の申請件数を増やしていく。

#### (3) 受託研究収入等

企業や大学、専門研究機関と連携を図ることにより、共同研究や受託研究事業を推進していく。

#### (4) 教育研究費等

計画的に予算遂行することにより、無駄や無理な購入をやめ、支出経費の抑制を図っていく。

#### (5) 光熱水費等

電気・水道料等日常におけるこまめなチェックにより、傾向を把握し、経費削減を推進していく。

#### (6) 教研用機器備品費

使用可能な機器は使い切ることを原則とし、新規機器の導入に際しては、計画的に、また研究所全体で使用可能な機器を優先選択するようにしていく。

### 2. 教育研究活動

#### (1) 先進的研究の推進力を得る

先進的研究の推進に必要な大学院生・研究生の教育を行う。

#### (2) 先進的医療の実現のための人材を得る

高度先進医療を可能とするための人材の育成

#### (3) 武蔵小杉病院、多摩永山病院と連携して取り組むトランスレーショナル

リサーチの推進。武蔵小杉病院内の研究室の再構築と研究設備の充足を図る。

- (4) 高度先進医療を行うための研究技術の開発  
癌研究・代謝研究を軸として、細胞・分子レベルでの研究から個体の研究までを遂行する。

### 3. 学生支援活動

- (1) 先進的研究の推進に必要な大学院生・研究生の教育を行う。
- (2) 高度先進医療を可能とするための人材の育成。
- (3) 病理部門療法・大学院生2名、研究生4名が所属
- (4) 生化学部門・大学院生3名、研究生3名が所属。

### 4 連携事業

- (1) 川崎糖尿病懇話会（監事：南 史朗）  
糖尿病病診連携、糖尿病に対する啓蒙活動、糖尿病スタッフ育成
- (2) 川崎内分泌懇話会（代表幹事：南 史朗）  
内分泌診療に於ける人材の育成
- (3) NPO 法人 川崎糖尿病スクエア（理事：南 史朗）  
糖尿病病診連携、糖尿病に対する啓蒙活動、糖尿病スタッフ育成
- (4) 認知症市民公開講座（研究代表者：北村伸）  
市民の認知症理解を促進し、老人病研究所の研究成果を市民に還元する。
- (5) 専門家向けの認知症講座（研究代表者：北村伸）  
認知症の福祉、介護の専門家に認知症についての医学的および社会医学的な事について理解を深める。
- (6) 地域包括支援センター、認知症介護に携わるグループへの講演（研究代表者：北村伸）  
介護関係のグループに認知症についてより理解を深める。
- (7) 川崎市のイベントに参加し、認知症早期発見プログラムを实践（研究代表者：北村伸）  
認知症の早期発見が大切なことを市民に理解してもらう。
- (8) ミトコンドリア病患者・家族の会（顧問：太田成男）  
遺伝子疾患患者への援助と広報活動。
- (9) 川崎血管病フォーラム（代表幹事：岡本芳久）  
動脈硬化をはじめとする血管病についての研究会

## 13. 日本医科大学ワクチン療法研究施設

### 1. 収支計画

- ・ 附属事業収入

SSM 使用患者の大多数は進行期癌であるため、必然的に短期間の使用に留まることが多く、再来患者数の増加は期待できない状況であるが、平成23年度は前年度実績推定に基づき年間延べ患者数35,200名（内、新患は3,100名）の確保を目標とする。

## 1 4. 日本医科大学国際交流センター

### 1. 収支計画

#### (1) 補助活動収入

国際交流会館（本館・別館）の寮費を徴収する。

#### (2) 借入金収入

賞与のみ銀行からの長期借入金を利用する。

#### (3) 資産運用収入

国際交流基金への寄付金収入額に対する銀行預金利息を得る。

#### (4) 寄付金収入

国際交流基金設立募金を行う。

### 2. 教育・研究活動

外国人留学者研究会の実施

### 3. 学生支援・国際交流

#### (1) 医学部学生国際交流助成金を支給する。

国際的視野を持ち、世界で活躍できる医師・医学者を育成するため、学生の国際交流活動を支援する。

#### (2) 外国人留学生に対する奨学金を支給する。

外国人留学生に対し、医学、獣医学等のレベルの向上を図る。

#### (3) 医学部学生を派遣する。

国際的視野を持ち、世界で活躍できる医師・医学者を育成する。

#### (4) 外国の大学との協定締結・更新を行う。

大学間交流、特に学生の交換留学を積極的に行い、国際交流を深める。

## 15. 日本医科大学知的財産推進センター

知的財産推進センターは、主に以下の業務を行っている。

1. 本法人の知的財産に関する業務全般
2. 本法人の利益相反マネジメント業務

### 1. 本法人の知的財産に関する業務

#### (1) 知的財産に関する啓発活動

本法人内に対する啓発活動として、日本医科大学のメールアドレスを有する全員及び日本獣医生命科学大学の教職員に対して、第1、第3木曜日に「特許の豆知識」と題したメールマガジンを送付し、知的財産に関する情報を発信している。

また、日本獣医生命科学大学応用生命科学部動物科学科システム経営学小澤准教授の依頼により、日本獣医生命科学大学応用生命科学部の学生に対して、知的財産推進センター事務室員が講師となり、知的財産権について1回、授業を行う予定である。

平成22年度に冊子で作成している「特許の豆知識」を改訂し、発行することを企画していたが、この冊子に知的財産に関してだけでなく、知的財産を生み出す過程の研究に関する記載も掲載したほうが、より本法人の教職員に対して有効な啓発活動となりうるということから、改訂作業を一時中止した。このため、平成23年度には、日本医科大学研究推進課、日本獣医生命科学大学大学院課と検討の上、本法人で研究を行うためのルールも掲載した形で「特許の豆知識」を改訂する予定である。

#### (2) 知的財産の評価、維持活動

本法人の教職員から寄せられた発明について、知的財産として出願するか否か知的財産審議委員会で審議するための評価資料の作成を行うとともに、教職員に対して知的財産に関するアドバイスを行う。

更に、既に知的財産として出願を行っている発明について、その権利化及び維持のために特許庁との応答及び発明者対応を行う。

#### (3) 知的財産の実用化のための活動

既に知的財産として権利化をした発明について、実用化をするための活動を行う。

具体的には、知的財産として権利化した発明のライセンスのために、ホーム

ページへの掲載、補助金への応募の可能性の探索、企業との共同研究のあっせん等を行う。

#### (4) 産学官連携活動

本法人の知的財産を社会に還元するために、文京区、川崎市、東京都など各自治体との連携を深める。

## 2. 本法人の利益相反マネジメント業務

### (1) 利益相反 (COI) に関する啓発活動

本法人内に対する啓発活動として、日本医科大学のメールアドレスを有する全員及び日本獣医生命科学大学の教職員に対して、第2、第4木曜日に「COI ニュース」と題したメールマガジンを送付し、利益相反に関する情報を発信している。

また、日本医科大学においては、倫理委員会等と連携をして、臨床研究を行う研究者に対して、COI についての啓発活動を行う。

### (2) 利益相反に関するデータベースの作成

利益相反マネジメントを行う上で、法人人事部、法人財務部募金助成課、日本医科大学研究推進部、日本獣医生命科学大学大学院課、各倫理委員会、各薬物治験審査委員会、遺伝子倫理審査委員会等から情報が集まってくる。現在は、これらのデータはすべて紙ベースで保存しているのみである。これらをデータベース化することができれば、定期自己申告の際に事前に事務局で該当データを記入しておくことも可能となり、各研究者の記載の手間を省くことができる。さらに、各病院でどのような治験や臨床研究を行っているか、各大学でどのような公的研究費を獲得し研究を行っているか、といった状況を一元的に管理できることで、各所属における研究者の研究のポテンシャル等を把握することができ、利益相反マネジメントを行う際の検討資料が速やかに収集できるようになる。また、これらの研究の情報が集まることによって、各研究に関連する知的財産に関する業務にも役立つことが予測されるため、利益相反マネジメントに関するデータベースの作成を行うことを計画している。

### (3) 利益相反マネジメントの実施

平成23年度は、本法人の役員、日本医科大学の講師以上の全教員、日本獣医生命科学大学の全教員に対して、利益相反定期自己申告を行う予定である。

更に、臨床研究の利益相反マネジメントについては、各委員会との連携を密にとった上で、平成22年度と同様の形で、利益相反マネジメントを行う。

公的研究費の利益相反マネジメントについては、研究者の負担が軽減される形で利益相反が行えるように見直しを行った上で、公的研究費の利益相反マネジメントに関するガイドラインの作成を行い、公的研究費に応募する研究者に対して配布する計画である。

#### (4) 利益相反マネジメントに関する情報収集

他の機関でどのような形で利益相反マネジメントを行っているのか、更に本学のシステムをよりよくしていくためには、どのような形で利益相反マネジメントを行っていくべきか検討するために、様々な機会を利用し情報収集を行う。

## 16. 日本医科大学看護専門学校

### 1. 収支計画

#### 入学検定料収入

在学生の広報活動及びホームページによる増収

### 2. 教育・研究活動

- (1) 指導要項改訂に応じた「技術含めた学生の実践能力評価」の見直し(厚生労働省から通達予定)
- (2) 自己点検自己評価必須化に向けた取り組み(厚生労働省から通達予定)
- (3) 看護基礎教育改革検討会の動向に応じた養成校の資質向上カリキュラム改正後、初の卒業生排出の評価：フィジカルアセスメント、パンデミックドリル、災害看護演習、大学化・少子化に対する養成校の学生の資質と数の確保
- (4) 看護師国家試験合格率の向上
- (5) 建物の老朽化への対応
- (6) 設備・備品等の老朽化への対応

### 3. 学生支援・地域連携

- (1) 印西市のボランティア活動への参加
- (2) 実習施設におけるボランティア活動への参加
- (3) 学校祭において地域の献血活動に参加
- (4) 地域中学・高校の職業選択活動への支援